

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心 (LOVE & PRIDE) にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進と規範意識の向上により、豊かな人格を育む。

2 中期的目標

1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 生徒一人ひとりが自信を持てる基礎学力の定着と活用型学力の獲得をめざす。

ア 進路実現に対応可能な基礎学力を向上させるため、実態を正確にリサーチしながら、わかりやすく自信がつく授業を行う。

※学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」の項目において、平成29年度までに80%の肯定率をめざす。(H27年度：74%)

イ 主体的・協働的学びのある授業を積極的に取り入れ、活用型学力を育成する。また、ICT機器の効果的活用を促進する。

※各講座でのアクティブラーニング (AL) の導入を促進し、平成29年度までAL実施時間の比率を上昇させ続ける。

ウ 英語専門コースでは、より高いレベルでの4技能習得のため、指導方法の研究と主体的・協働的学びのある授業実践を行なう。

※英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇 (H30年度に3.5)

エ 放課後学習や週末課題の活用により、家庭での学習習慣を定着させる。

※2年生での家庭学習の平均時間を、平成29年度までに1時間以上とする。

オ 英語検定等、各種検定試験の対策指導を行うことで学習意欲を高め合格に導く。

※平成29年度には全校の約50%が受検、うち約60%の合格をめざす。(目標は1年：3級、2年：準2級、3年：2級)

カ 国際交流活動で英語やコミュニケーション力、国際感覚等を高める。(外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。)

(2) 高大接続改革に対応した「確かな学力」の育成と評価を研究し、新制度入試での進路保障に備える。

ア 新制度で大学入試が行われる平成32年以降においても進路保障が確実にいえるよう、高大接続改革の状況をリサーチしながら、新制度に対応する「確かな学力」の育成方法と評価方法について研究と実践を行う。

※ 高大接続改革に係る教育力向上プロジェクトチーム (仮称) による研究と研修 (年2回以上の研修)

※ 「確かな学力」を評価するための観点別評価の導入 (H30年度から本実施)

2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開

(1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。

ア 遅刻指導、服装指導、授業規律を徹底することにより、規範意識を育成し自尊感情と自信を高める。

※ 遅刻数は、平成27年度に約900件となり平成29年度を目途とした中期目標1000件を早期達成したため、これを維持・減少に努める。

※ 学校教育自己診断 (生徒) での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率95%以上を維持する。

(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導を行なうことで安全で安心な学習環境を維持し、生徒の健全な成長を支援する。

ア 何らかの悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図り関係機関とも連携する。

※ 学校教育自己診断 (生徒) の教育相談に関する項目の肯定率を平成30年度までに60%以上にする。

※ 教育相談担当者等によるケース検討を年間20回以上行なう。(毎年)

※ 生徒の障がいや特性の理解を深め、適切な「合理的配慮」と指導・評価が行なえるよう、事例検討を含めた研修を行なう。(毎年)

(3) 来校者や地域の方へのあいさつの励行による、社会性と自信の育成。

ア 「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。

※ 学校教育自己診断 (生徒) の挨拶に関する項目の肯定率を平成30年度までに80%以上にする。

3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携

(1) 伝統ある学校行事・部活動により主体性や協調性を育成し愛校心も育む。

ア 学年進行により生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒に自信をつけさせ、自己効力感や自己肯定感を高める。

※ 学校行事の満足度は、25年度85%、26年度83%、27年度は88%と上昇しており、平成29年度には90%をめざす。

イ 部活動運営の主体的活動を通じて、社会性やリーダーシップ、組織運営力を身につけ、逞しい人間力を育成する。

※部活動入部率は、25年度の1年生当初が約71%、26年度77%、27年度65%であり、安定して70%以上となるようにする。

ウ 中学生の体験部活動や合同練習等の交流を推進する。

(2) 地域行事等への積極的な参加や広報活動により、地域の信頼を高め自尊感情や自己有用感を育む。

ア 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。

イ 広報チームを核に生徒、教職員が一体となって「面倒見のよい津田校」を広報し、地域からの信頼度を高める。

ウ 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月 実施分] | | | | 学校協議会からの意見 | |
|--|------|------|------|---|--|
| 主な項目における結果 (%) | | | | <p>【第1回(7月4日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校が実施しているあいさつ運動について非常に高い評価。 ・ 昨年度の進学実績の伸び率についてもっとアピールしていてもよいのではないか。 ・ 中学におけるアクティブラーニングの実態も踏まえてさらに研究をしてもらいたい。 <p>【第2回(11月21日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブラーニング的な要素を授業で取り入れられるのは、通常の授業で、そういった活動ができていたためである。ただし、まだまだ工夫の余地もあり、さらに充実したものにしてもらいたい。 ・ 第1回授業アンケートの結果を分析するに際して、高校入試の制度の違いによるそれぞれの生徒の背景を斟酌する必要があるのではないか。 ・ 2020年度から大学入試が変わるということで、大学自体も変わり始めている。アドミッションポリシーなどでどのような生徒を受け入れていくのかはますます明確なものになっていく。高校もそういったところで特色を明確にする必要があるのではないか。 <p>【第3回(2月26日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業アンケートの結果について生徒の授業に対する意欲は高いものの、興味や関心が持てていない。 ・ アクティブラーニングをさらに導入し、参加できない生徒を減らしていくべき。 ・ 入社試験や、大学入試自体も変化していく。 ・ 学校教育自己診断の数値は落ち着いてきている。ここから津田校の特徴を出していくべき。 ・ 生徒に手をかけすぎて、かえって生徒の自主性を阻害したりしていないか。 | |
| 内 容 | 生徒 | 保護者 | 教員 | | |
| 学校への満足度(学校は楽しい、通わせてよかった。) | 74.2 | 94.3 | — | | |
| 授業への評価(わかりやすい、学力がのびされている) | 71.6 | 89.5 | — | | |
| 進路指導に対する評価 | 83.2 | 91.8 | — | | |
| 生徒指導に対する評価 | 93.6 | 95.4 | 93.1 | | |
| 学校行事、部活動に対する評価 | 88.9 | 93.6 | 93.1 | | |
| 【分析】 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に対する満足度は、生徒平均で昨年を2ポイント下回る結果となった。ただし、1年生に関しては学年平均79.7%で昨年の11ポイントも上回っており、学年ごとの違いが、鮮明となった。 ・ 授業に対する評価は、生徒平均で2ポイントの低下となった。今年度授業改善に取り組んできただけに残念だが、生徒の授業に対する要求水準が格段に高くなっていることが記述欄から感じられる。来年度以降も更なる充実が求められる。 ・ 進路指導に関しては生徒は昨年並みであったが、保護者の肯定的意見の割合が昨年の1ポイント以上、上回っており、このことは保護者の本校に対する期待とともに進路意識がこれまでよりも高いことを示していると考えられ、来年度以降さらに、特に保護者に対する進路情報の提供などの充実が求められる。 ・ 生徒指導に関しては90%を超える肯定的な評価を得ている。この体制を維持していくと同時に生徒の変化に柔軟に対応できる組織が肝要である。 ・ 学校行事や部活動についても高い評価を得ている。学習活動とのバランスをいかに取っていくかが重要。 | | | | | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------------------|---|--|---|--|
| 1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成 | <p>(1) 基礎学力の定着と活用型学力</p> <p>ア 基礎学力の向上と進路指導</p> <p>イ 主体的・協働的学びの実践</p> <p>ウ 英語専門コースでの授業実践</p> <p>エ 家庭学習の定着</p> <p>オ 各種検定試験への取組み</p> <p>カ 国際交流活動の推進</p> <p>(2) 高大接続改革への対応準備</p> <p>ア 「確かな学力」育成と評価の研究</p> | <p>(1)</p> <p>ア・「わかる授業」のための授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業の実力テスト継続活用による基礎学力充実と進路実現のための分析と指導 <p>イ・主体的・協働的な学びのある授業の実施とICT機器の活用研究</p> <p>ウ・英語専門コースの授業における、4技能の向上を意識した授業研究</p> <p>エ・放課後学習と週末課題の組織的取組み</p> <p>オ・英語検定等の対策指導を行い意識を高める</p> <p>カ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国派遣事業の継続実施。 <p>(2)</p> <p>ア・高大接続改革に対応した「確かな学力」の育成方法と評価方法の研究と研修</p> | <p>(1)</p> <p>ア・自己診断「授業はわかりやすい」75%以上 [H27:74%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実力テスト結果における下位区分者を入学時と比較して 30% 減少 [H27:国英 18%減] ・進路実現に関する満足度 80% <p>イ・授業におけるアクティブラーニング率の増加 [H27:32%]</p> <p>ウ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2 以上 [H27:3.2]</p> <p>エ・週末課題等の提出率 9割以上 [H27:10割達成]</p> <p>オ・英検受験率・合格率の増加。 [H27:受験率減・合格率9%増]</p> <p>カ・教育旅行1校受入れ・米国派遣7名以上参加 [H27:8名]</p> <p>(2)</p> <p>ア・高大接続改革研究PT(仮称)立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」育成と評価に関する研修(1回) | <p>(1)</p> <p>ア・「授業はわかりやすい」との回答は71.6%。記述部分から授業への要求が高くなっていることがその要因だと考えられる。取組みの充実が必須(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実力テストにおける下位区分者は入学時(4月)の99人から1月実施分で63人に減少。入学後に成績をきちんと伸ばせている。(36%減)(◎) ・進路実現に関する満足度は83.2%(◎) <p>イ・主体的・対話的な授業は授業に対して33.6%の割合で実施。昨年を1.6ポイント上回った。(○)</p> <p>ウ・英語専門コースの授業満足度は3.2</p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度を上げるカリキュラムの策定が必要。(○) <p>エ・週末課題の提出率は1月末までで98%。最終は100%の予定。(◎)</p> <p>オ・受験者は増加。[H27:229名→H28:352名](◎)合格率は5.9%増。[H27:33.2%→H28:38.1%](○)</p> <p>カ・10.25台湾清水高級中学校来校(生徒25名、教員3名)。主にクラブ活動に参加してもらうなど交流。生徒も積極的に行動できていた。米国派遣に10名の生徒が参加。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・「大学入試改革に関わる授業変革PT」を立ち上げた。職員会議等にて他校視察などの様子を随時報告。授業相互見学週間を実施。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ研修Ⅱを含め2回開催。(◎) |
| 2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開 | <p>(1) 規範意識の醸成</p> <p>ア 遅刻と服装指導、授業規律の徹底</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>(2) 教育相談・支援教育</p> <p>ア 教育相談の充実と関係機関連携</p> <p>(3) あいさつの励行</p> <p>ア あいさつ運動の展開</p> | <p>(1)</p> <p>ア・遅刻指導・服装指導の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。 <p>イ・特別活動等で人権尊重意識醸成の取組みを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を行なう。 ・必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。 ・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。 <p>(3)</p> <p>ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・年間遅刻数1000件未満の維持 [H27:998件(3/15)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断(生徒)の「落ち着いた学習環境」への肯定率70% [H27:67%] <p>イ・人権に関する講演の開催(1回)</p> <p>(2)</p> <p>ア・自己診断(生徒)での規範意識の肯定率95% [H27:94%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・支援教育に関するケース検討(20回以上) ・関係機関連携(5回) ・教育相談・支援教育に関する研修実施(1回) ・自己診断での教育相談の肯定率上昇(5p) [H26 48.3%→H27 52.6% :4.3p増] <p>(3)</p> <p>ア・自己診断(生徒)の「あいさつをしている」80%以上 [H27:74%]</p> | <p>(1)</p> <p>ア・遅刻数は1月13日現在648で激減。教員による地道な取り組みが成果となった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「落ち着いた学習環境」への肯定率は69.0%(△) <p>イ・人権に関する講演会を1度開催。生徒の人権についての意識向上は昨年より3ポイントも上昇。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・「規範意識」の肯定率は93.6%で横ばい。 [H27 94%→H28 93.6%](○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・支援教育に関するケース検討23回(1月まで)生徒に寄り添う指導の一環(◎) ・関係機関との連携は、子ども家庭センターを中心にのべ5回。(○) ・教育相談・支援教育に関する研修を1回実施。(◎) ・校内で相談できる先生がいるとの回答は7ポイント上昇(H27 52.6%→H28 59.6%)。生徒一人一人を大切にする教員の姿勢が評価された。(◎) <p>(3)</p> <p>ア・「挨拶をしている」77.4%(○)。1年生では88.3%であるが学年進行に伴ってやや数値が下がっている。</p> |

| | | | | |
|--|---|--|---|--|
| <p>3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携</p> | <p>(1) 行事や部活動による主体性・協働性と愛校心の育成 ア 生徒主体の行事運営 イ 生徒主体の部活動運営 ウ 中学生体験入部や交流の推進 (2) 地域行事等への参加と広報活動 ア 地域行事等への参加 イ 生徒・教職員一体の広報活動 ウ 学校説明会と中学校訪問</p> | <p>(1) ア・生徒が主体となるよう学校事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。 イ・部活動での生徒の主体的活動を支え、社会性やリーダーシップ、組織運営力など「生きる力」を育成する。 ウ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。 (2) ア・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。 イ・生徒と教職員による中学校・中学生への広報活動。 ・英語専門コースの生徒による、学校説明会や地域の小中学校を訪問してのプレゼン等により学校の魅力を伝え、生徒の自尊感情や自己有用感を育む。 ウ・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。</p> | <p>(1) ア・イ ・自己診断（生徒）の学校行事及び部活動への満足度88%以上 [H27:88%] ・1年生の入部率70% [H27:65%] ウ・「部活動体験会」などを1, 2学期で5回以上実施 [H27:16回] ・部活動交流に参加する中学生500名以上 [H27:532人] (2) ア・地域の行事等への参加(3回以上) [H27:3回] イ・中学校向け広報紙の発行と配布(6回以上) [H27:6回] ・地域の学校での生徒によるプレゼンや広報 ウ・中学校訪問60校(80回) [H27:59校]</p> | <p>(1) ア・イ ・学校行事等への満足度は88.9%(◎) 行事の充実、今後も学校経営の一つの方針である。 ・1年生の入部率は68% 昨年を上回っているが目標には届かなかった。新入生の進学に対する意識の変化が背景にあるのかもしれない。(○) ウ・中学生対象の「部活動体験会」を1, 2学期で17回実施 ソフトボール部、陸上部など細かい交流も行った。(◎) ・今年度参加の中学生は580名。中学への周知の方法や申し込み方法の改善も増加の一因である。(◎) (2) ア・地域の施設での公演など7回実施。本校のクラブ活動のレベルの高さが認識された。(◎) イ・「津田校通信」を年6回発行し、学校のPRに努めた。(○) ・地域の中学校が開催した英語フェスティバルに生徒を派遣し、海外派遣の体験についてプレゼン。非常に高い評価を受ける。中学生対象の学校説明会でもプレゼン。(◎) ウ・中学校訪問は60校に対し79回実施し、情報提供に努めた。また、その他管理職による中学校訪問も実施。(○)</p> |
|--|---|--|---|--|